

関西本線活性化利用促進三重県会議 結果

- 1 日時 令和5年11月29日（水）16：10～16：55
- 2 場所 三重県庁プレゼンテーションルーム
- 3 出席者 会長：三重県一見知事
委員：亀山市櫻井市長、伊賀市岡本市長、
JR西日本水口常務理事近畿統括本部副本部長阪奈支社長
- 4 議題 (1) これまでの取組について
(2) 今後の取組について
- 5 結果

(1) これまでの取組について（公開）

- ・ 通勤モニター事業及び潜在需要調査結果の報告…質疑無し
- ・ 関西本線利用状況やJR西日本の取組の報告…質疑無し

(2) 今後の取組について（非公開）

以下、2つの方向性を決定しました。

- ・ 地域外からの新規需要の創出に向けて、「大都市と沿線地域を結ぶ列車の実証運行」の令和6年度実施に向け関係者間の検討をすすめていくことや、列車実証運行にあたって観光客の受入体制の整備・充実及び沿線の観光プロモーションを強化する。
- ・ 関西本線駅から最寄りの学校や工場集積地を結ぶ二次交通バス実証運行を行い、鉄道利用による通勤・通学の可能性を検証する。

(出された意見)

- ・ 東海道新幹線や自動車専用道路の整備もすすみ、関西本線の利用者が減っている。今後、大阪・関西万博やリニア中央新幹線の開業もある中で、関西本線が果たす役割や位置付けを考えていく必要がある。
- ・ 地域の交通体系としての関西本線の持続可能性や利便性の向上、沿線の魅力や価値の向上に向けて取り組んでいく必要がある。
- ・ 新堂駅前では、民間企業による取組がすすんでいる。そういった力がいくつか生み出されていくことが望まれる。
- ・ 列車実証事業については、JR西日本とJR東海によるタッグのもと実現できれば大きな効果を生み出す力になる。合わせて、観光プロモーションやまちづくりとのリンクを図っていきたい。
- ・ 列車実証事業については、事前の周知を徹底したうえで、実証実験に相応しい本数で運行してこそ、良い結果が生まれると感じる。
- ・ 列車実証事業については、実務面や安全面の課題もあり、ハードルが高く、運行の可否も含めこれからの検討の中で深めていく必要がある。使用車両や区間も今後の検討である。